



学校図書館だより

6月号

令和3年6月
柏市立富勢中学校
柏市学校図書館指導員
岩瀬 瞳

6月になり、アジサイが美しく色づき始めました。校内の梅やビワの木には立派な実ができています。富勢中にはいろいろな果樹があって豊かですね。

一学期も折り返し地点を過ぎました。梅雨空が続くと気持ちが沈むこともあるかもしれません。けれど、そういう時だからこそ感じられる思いもあるのではないのでしょうか。静かな雨音に耳をすまし、今の自分の心に響く本を探しに来てください。

北里柴三郎 没後90年



北里柴三郎
(1853.1.29-1931.6)

北里柴三郎は日本近代医学の父として知られ、破傷風菌抗毒素（抗毒素とは抗体のこと）の発見、血清療法の確立、ペスト菌の発見など、細菌学や感染症の予防と治療に大きく貢献しました。

北里の研究は「病気を未然に防ぐことが医者使命である」という予防医学の信念に基づいています。その功績は様々なワクチンの開発につながりました。

——ほるぷ社『人物科学の歴史 北里柴三郎 高峰譲吉』より

*2024年から発行される新千円札には北里柴三郎が印刷されます。



学年文庫はじまる！！

6月から始まった学年文庫、みなさん手に取っていただけましたか？図書館の利用が制限される中で、どうしたらみなさんのもとに本を届けることができるのかを図書委員さんが考え、学年文庫をつくりました。選書から利用方法まで自分たちで考え、またこれからもよりよい利用方法を考えて工夫を重ねてくれています。

ぜひみなさんの感想や、こんなふうに利用したい、こんなことはできないかといったアイデアがあれば図書委員さんに伝えてください。自分たちで作ります新しいアイデアはとても貴重で面白いものです。図書館の本を図書館以外の場所でも手に取ることができる試みを豊かなものにできるよう、ご協力をお願いします。



*教室でも本の利用の前後には手を洗うことを忘れずに！



今月のおすすめ

※『ライブラリーサーチ』より一部引用

『二度生きたランベルト』

ジャンニ・ロダーリ 平凡社 970/口

オルタ湖に浮かぶサン・ジュリオ島に、大金持ちで病気持ち、93歳のランベルト男爵が執事と静かに暮らしている。あるとき、冬の別荘のあるエジプトに出かけた2人は、なぜかあわててイタリアに引き返す。そのときから屋敷に異変が。男爵の雇い入れた6人の男女が屋根裏部屋で「ランベルト、ランベルト、ランベルト」と男爵の名前を休みなく繰り返している。そのうち、男爵のつるつる頭になんと一本の髪の毛が……。

このお話は、作者が作った物語を小中学生に語り聞かせ、聞き手の反応や意見を取り入れてどんどんと新しくなってきたのであります。「開かれた物語」は、幾通りもの読みかたを許してくれます。そして新たな物語を付け加えることも。読むことは生きることであり、つくることでもある。物語の世界をおおいに楽しんでください。

『いじめのある世界に生きる君たちへ』

——いじめられっ子だった精神科医の贈る言葉——

中井久夫 371/ナカ

精神科医である作者の体験をもとに、いじめの独特な仕組みをわかりやすい言葉で解き明かす。

いじめのかなりの部分は、学校の外で行われれば立派な犯罪であるにもかかわらず、学校内で起こる時その意識は希薄になる。しかしそれは錯覚でしかないことを忘れずに。

いじめにつきまとう「自分は他人を支配している」という権力者としての感情、まわりの人の「自分じゃなくてよかった」という安心感。人を支配し、言いなりにするまでの過程にある巧妙な段階。

いじめを個人の問題に押し込めることは大切なことを見失わせる。この本に書かれているいじめの構造に思いを至らせるとき、何よりも大事にされなければならないことは何なのか、一緒に考えてみませんか。